

## 第 15 回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加報告

テーマ「ダイバーシティ推進における産学の取り組み」

日時:2017 年 10 月 14 日(土)

場所:東京大学本郷キャンパス 鉄門記念講堂

第 15 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに、畜産学会の若手奨励・男女共同参画推進委員会より2名の委員が参加しました。このシンポジウムは、連絡会に加盟している 90 学協会が集まり、講演会・パネル討、などを行うことにより、今後の科学技術の発展および持続可能な社会の実現に向けて必要とされる女性研究者の活用及びそのための支援策 などについて、有効な方向性を探ることを目的としています。

### <午前の部>

「第 4 回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査報告」として昨年度実施された大規模アンケートについて4人の演者から報告がありました。アンケートの有効回答数は 18,159 件で前回より約 2,000 件増加とのことでした。集計結果より、雇用形態(任期付き)や年収において男女差がみられました。これは女性が高齢になっても任期付き職の割合の多いことが反映したようです。自由記述欄においては出産・育児が博士課程、任期付き研究職を経て定職を得るまでの期間と重なることや、職を得るために配偶者との同居が難しい、任期付きでは認可保育所への入園が難しい、出産・育児により研究を中断すると研究職の公募の年齢制限が障壁となること、示されるロールモデルがすぎすぎるなどの問題があげられています。本解析報告(180 ページ)は、連絡会 HP からどなたでもダウンロードできます。また、連絡会では本調査結果を元に「女性研究者育成と男女共同参画に関する要望」をとりまとめ、9月に文部科学省および内閣府へ訪問提出したそうです。日本畜産学会は、学生会員の女性比率は 41%ですが、正会員の女性比率は 15%と少なくなる特徴があります。今後委員会では、大規模アンケートより学会員のデータを抽出し、解析する予定です。データ解析が得意な方のご協力を求む！

### <午後の部>

「真の技術革新を目指したダイバーシティ」をテーマに、内閣府や文部科学省、産業界、大学関係者からのご講演がありました。BT ジャパン株式会社社長兼日本経団連審議員会副議長である吉田晴乃氏からの挨拶では、「テクノロジーの進化によって、あらゆる事が便利になっていく中で、次世代の社会を考えた時に、女性は、仕事でもプライベートでも今よりもっともっと貪欲に自己実現していくべきである、そのことが次世代の社会の創造に繋がる」という言葉が印象的でした。

ステージ 2 段階に入ったダイバーシティ推進の意義として、企業の継続的な発展・成長のための経営戦略の一つとして捉えられており、①人材獲得力の向上、②リスク管理能力の向上、③多

様性によるイノベーション技術開発の推進、④取締役会の監督機能の向上などに必要とされるとのことでした。公益財団法人 21 世紀職業財団会長岩田喜美枝氏より、「企業内のダイバーシティ推進において、仕事と育児の両立支援制度はだいぶ浸透してきたが、現在の支援の在り方（休職を十分とれるようにする）が、かえって女性のキャリアアップの弊害となりつつあります。女性の活躍とは、「仕事の継続」と「キャリアアップ」の二つが実現している状態であり、今後は、継続的に仕事をこなしながら経験を積めるような両立支援に方向転換する段階であり、それらには女性自身の意識改革が必須である」というお話があり、大変興味深いものでした。また技術開発であれ、組織改革であれ、イノベーションが生まれる時は、常識と非常識（例えばホモの集団に、マイノリティーが乗り込んで共存する過程など）がぶつかりあった時に生まれる。という言葉が印象的でした。

今回、本学会理事で、名古屋大学副理事・男女共同参画センター長の東村博子氏からも講演がありました。2015 年に、国連機関 UN Women より、女性活躍に積極的に取り組む世界のトップ 10 大学として日本で唯一選ばれた名古屋大学における様々な男女共同参画推進の取り組みが紹介されました。一方、芝浦工業大学教授の國井秀子氏から、総じて女性活躍の推進が加速しつつある企業と比較し、特に大学内での進みが遅れている傾向があり、その理由として、企業に比べ大学では、①組織の方針展開をする際に、責任体制や権限者が不明確であること、②各長の評価に男女共同推進の功績が影響しない、③女性研究者のキャリア構築に責任を持つ体制がないなどが挙げられ、大学内ダイバーシティ推進のための産学連携の有用性について、述べられていました。

以上、これまでの政府、企業、研究教育機関等での男女共同参画推進への取り組みも第 1 段階を終え、今後、より成熟したダイバーシティの推進に向けた第 2 段階に進んでいることを肌で感じることができました。



東村博子理事(名古屋大学教授)のご講演の風景



(左より)シンポジウムに参加した東村博子理事、木村直子、武田久美子

(武田久美子・木村直子)